

日々の教育・保育の指導に関する留意点・評価 自己評価(2019年度(令和元年度))

	項目	評価・取り組み状況
教育・保育 (健康 人間関係 環境 言葉 表現)	1 生理的な欲求を満たし生命の保持と情緒の安定を図る	他クラスとの連携を図りながらより良い生活ペースが展開できるようにしている 保育内容により生活のスペースが変更されている 目配り・気配りができて対応できている 一クラスの人数が多く個々との関わりが難しい
	2 行動範囲が広がり探索活動が盛んになり心身ともに快適な生活をする	小人数制にできる体制づくりの工夫をすると一層よい 乳児の場合、個に対する関わりを大切にしてい 危険リスクをなくすための環境整備・職員の配置 個々の体調・発達状況を職員が把握していく
	3 保育教諭や友だちとのかかわりを深め、自分の伝えたい事や思いを表現する	保育者の提供する遊びだけでなく主体的に遊びが展開できるよう子ども自身が考えたり、工夫したりする
	4 保育教諭や友だちとのつながりを深め集団としての行動が出来る	保育の連続性を大切にしながら積み上げていく 多様に把握して流れに組み入れていく 家庭との連絡を密にして規則正しい生活リズムを整えながら、心を満たしていく
	5 集団生活の中で、意欲的に活動し知識や能力を獲得し達成感や充実感を味わう	個々の様子を把握して適切な援助をしていく 主体性・自主性をひく出す環境作りを工夫する必要がある 個々の欲求を満たしながら自主性の発達を促せるようにする
	6 環境を通じた教育及び保育活動の充実	自由遊びの中から、集中して遊びこむことや、自分で考えて行動に移す力を養えるようにしていく 個々のペースで関わり、欲求を満たす
情報 人材 提供 成 公共 機関 との 連携	7 特別な配慮が必要な園児の指導	保護者との信頼関係の構築・この状態を見極める職員の力 職員間で情報を共有し、適切な関わりをしていく 少人数でゆったりと関われる環境の設定
	8 家庭・地域社会との連携	積極的に園外に発信していく 地域の職域理解と近隣施設との交流 日頃より散歩等を通じて、挨拶をかわしていく
	9 職員間の連絡および協力体制	乳児クラスと幼児クラスとの連携を丁寧にしていく 会議録だけでなく伝達の時間があるとより内容が把握しやすく意識統一につながる
	10 小学校との円滑な接続	保護者が子どもの様子を把握してうえで、積極的に参加できるよう声をかける 「百聞は一見に如かず」保育現場を見ていただく機会があればよい 園と小学校との相互理解が深められるようにする